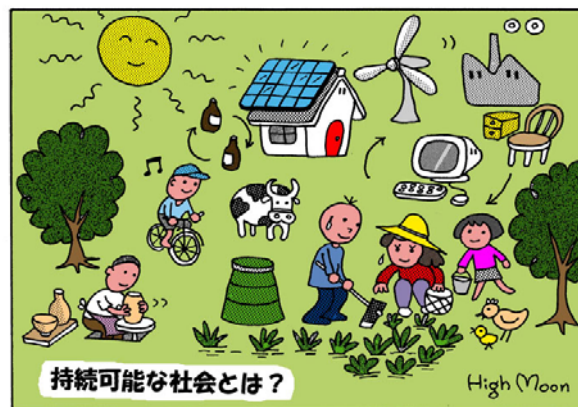


京の環境共生推進計画に掲げる事業の総括について

総括

京の環境共生推進計画の進ちょく状況を、環境指標などと照らし合せ、点検した。京都市地球温暖化対策室や循環企画課など各部門において、審議会などの検討組織を設置し、評価検討・見直しが行われている。

このため、ここでは京都市が目指す環境像としてのバランスを勘案し、各長期的目標（テーマ）の今後の課題と方向性を整理する。



提供：High Moon 高月 紘

○ 長期的目標 1：国際的連携と地域的取組により脱温暖化社会を目指すまち・京都

環境モデル都市の選定を受け、地球温暖化対策推進委員会において条例・計画の見直しに関し審議されている。また、低炭素社会の構築に向け、ライフスタイルの見直しなどについて市民会議でも話し合いがすすめられるなど、先進的な取組に向けた新たな展開が始まっている。京都ならではの大胆な政策提案の実現を目指し、当該機関で検討を重ねていただきたい。

○ 長期的目標 2：公害のない健康で安全な環境が保たれるまち・京都

昭和 30 年代、40 年代の劣悪な大気・水質関係の公害は陰を潜めたが、市民生活の基盤を保障する分野であることから、今後とも地道な調査・研究、監視・測定等を進めていく必要がある。現在までの施策を振り返り、騒音や悪臭苦情など増加傾向の事象も含め、課題を抽出し新たな展開を図っていくべきである。

○ 長期的目標 3：自然と共生し、うるおいとやすらぎのあるまち・京都

本市は、三方を山に囲まれており、その起伏に富んだ地形から、植生は概ね三層に分れている。八丁平の湿原、芦生の原生林などを始め、市街地には貴重な植生が点在し、市民に身近な神社・仏閣などにおいても、多様な樹木が生育しており、他の大都市には無い豊かで多様な自然環境が存在していることが、本市の特長としてあげられる。現在、この自然環境と関連する施策として、景観施策・林業施策・公園等の緑化施策等があるが、これら以外に自然環境を市民の身近な環境ととらえ総合的に調整し、保全を進める施策が必要と考える。そのためにはまず、今秋開催予定の COP10(生物多様性条約第 10 回締約国会議)を前に、本市の自然環境保全施策を振り返り、現況をまとめた基礎データを整理する必要がある。

○ 長期的目標 4：ごみの減量化を進め、資源を循環的に利用するまち・京都

ごみ減量に向け、有料指定袋制の導入をはじめとした取組が進められている。京都市廃棄物減量等推進審議会の答申を経て、新循環型社会推進基本計画が策定されたが、他都市に先駆けた取組が示されている。今後、計画的に実行に移していただきたい。

○ 長期的目標 5：すべての主体の知恵と工夫と行動で環境を支えるまち・京都

環境問題に関連する普及啓発を含めた環境教育は、教育委員会・エコロジーセンター等や各部署の個別施策で、展開されている。今後、市民、事業者の更なる環境意識、知識の向上に向け、施策・事業等の体系的な整理を行うとともに、課題等を抽出し、新たな対策等を検討していく必要がある。また、総合的な視点から、自然環境を人の環境ととらえ、これらに触れ、働きかけ、創造することにより、さらに豊かで多様な自然環境を保全していくことは行政・事業者・市民の責務である。こうした行動が市民の環境意識・地球環境とのつながりの認識を醸成することとなり、循環型社会の構築や、低炭素社会の実現に貢献できるものと考えられることから、今後、環境教育・学習の更なる推進に向けて注力していただきたい。